

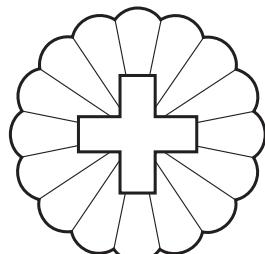
会報

— 16号 —

平成29年3月1日発行

発行者 皆川 浩一

広報編集者 小島南海雄



公益社団法人 東京都はり・きゅう・あん摩マッサージ
指圧師会広報局

〒101-0042 東京都千代田区神田東松下町37-4

Tel 03(3252)8811 Fax 03(3252)8813

平成29年度東京都委託施術者講習会 (第1～5回) の日程と講師決定のお知らせ

平成29年度の東京都委託施術師講習会は、以下の開催要項にて実施いたします。

①前期：外部講師招へいによる、はり・きゅう・あん摩マッサージ指圧の実技講習会

5回

開催日・時間、会場は次の通りです。講師は、小林詔司（積聚会）、木戸正雄（天地人治療）、福島哲也（深谷灸）、油谷真空（北辰会）、大浦慈觀（杉山真伝流）の各先生と交渉中です。日程、テーマの詳細は都師会ホームページ、会報でご確認ください。

第1回 6月18日(日) 13:00～17:00 新橋ビジネスフォーラム

第2回 7月16日(日) 13:00～17:00 かつしかシンフォニーヒルズ

第3回 8月20日(日) 13:00～17:00 新橋ビジネスフォーラム

第4回 9月17日(日) 13:00～17:00 新橋ビジネスフォーラム

第5回 10月20日(日) または11月19日(日)

13:00～17:00 新橋ビジネスフォーラム

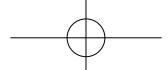
②後期：松塾+杉塾 5回

昨年度と同様に、11月から翌年3月に開催いたします。

松塾：毎月第1土曜日 10:00～12:00 都師会会館 3F会議室

杉塾：毎月第1日曜日 10:00～16:00 東京都障害者福祉会館会議室

なお、前期講習会の第5回の日程変更に伴い、10月、12月～3月に変更の可能性があります。決まり次第ホームページ、ポスター、会報にてお知らせいたします。



~~~~~

### 公益事業実施報告

## 「日本を代表する臨床家による日本伝統鍼灸・マッサージの 神髄を学ぶ」

平成28年度第4,5回東京都委託施術者講習会の講座から

第4回はかつしかシンフォニーヒルズにて10月16日（日）、第5回は11月20日（日）新橋ビジネスフォーラムにて、13：00～17：00に開催されました。講座内容の要旨は以下の通りです。

### ■AZP理論で患者に寄り添った愛のある施術を!!

——平成28年度第4回東京都委託施術者講習会

講座：超高齢化社会をAZP理論で乗り越えよう—あはき師のための訪問リハビリ

講師：西村久代（大阪・訪問リハビリ研究センター代表）

会場のかつしかシンフォニーヒルズには100人近い参加者が集まった。皆さん西村久代先生の話や実技を、一つでも自分のものにしようと講義を熱いまなざしで見、そして体験したことによる感動を得ることができたのではないだろうか。

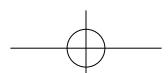
鍼灸師、あん摩マッサージ師、そのほかの資格を持っている者の資格を生かすこと。今後を見据えて介護や福祉の知識を理解しておくこと。患者をよくするための知識や技術。そして自分自身を守るために体の使い方。こういったことの必要性を、先生の講義から強く感じた方も多くいたと思われる。

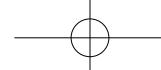
講座は、まず2025年問題から。団塊の世代が75歳になるのにあと9年という事実が、社会にもたらすインパクト。そして介護が必要になった主原因、さらに誰が介護するのか？介護保険の現在の単位について、要介護4・5の患者の場合どのような介護が必要になってくるのか？介護保険制度の現状、将来の見通しが厳しい中、はり師、きゅう師、あん摩マッサージ師には何ができるか？在宅で寝たきり状態の方はどのような状況なのか？

このような現状認識を踏まえながら、先生の講義は、具体的に寝たきりの状態の方をどのように回復させていくのか、そのためにAZP理論（Anatomic Zero Position、解剖学的肢位）をどのように活用することができるのか、へと入っていった。寝たきりで動かなくなった筋肉や関節の拘縮や変形により、AZP（正しい肢位）からずれている状態を正す「変形徒手矯正術」。そして関節運動を利用して筋肉を完全に効率よく運動させる「関節リラクゼーションテクニック」も実技で公開された。

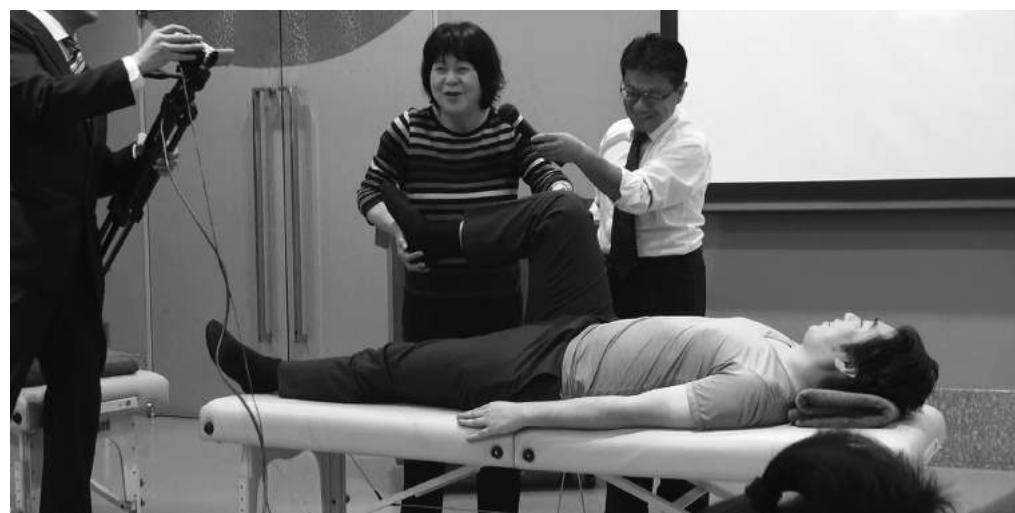
会場からは術前、術後の手足の動き方の違いに「お～～～！！」と感嘆の声が聞こえる

~~~~~





~~~~~



施術前：患者には、膝をこれ以上深い角度に曲げることができない屈曲制限がある。

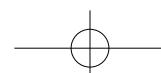


AZPの施術後：膝を曲げる角度が明らかに深くなっていること、屈曲制限が改善されたことが見て取れる。

次の手順でAZP理論に基づき施術した。①施術者は患者の足元に位置を取る、②患者をAZPの肢位（姿勢）にする（4ページ部分参照）、③この状態で、足関節を把持して（しっかり持つ）踵方向に5回軽く引っ張る。文字にすると長いが、実際にこれだけの施術にかかった時間は、たったの数秒である。



~~~~~



ほど。

それでは、ここで簡単にAZP理論について一部紹介しておくことにする（詳しく知りたい方は西村先生の書籍、DVDのAZP理論に基づく『変形徒手矯正術』を参照）。

AZP（正しい肢位）とは、患者の頭が体の中心線上にあり、肩甲帯が左右対称で水平に横一直線となり、上肢は手掌が前面を向き、下肢は大腿骨から足関節まで平行を保ち、足幅が14cmで、足の第3指が前面を向き、重心が体の中心部にくる肢位のこと。施術者は常にそれを念頭において施術し、その方向にもっていくことが重要であり、変形徒手矯正術はAZP理論に基づいて施術するテクニックである。屈曲制限の対処事例を写真で確認（3ページ参照）してみよう。

この写真の事例のように、AZP理論とは、施術者の施術や施術に伴う動作を楽にするとともに、患者にも負担がかからない肢位で効果を上げるという理論。今回は、関節や筋肉の形状を正しくするという症例が中心の講座であった。しかし、それだけではなく動作面での作業性の効率化、例えば患者を床から立たせたり、車いすからいすへの移動等々、介護やリハビリのなどに従事する施術者に役に立つ理論であり、適用範囲が広い。西村先生の著書にはその様々な事例が紹介されている。

AZP理論は解剖学や行動力学に基づいているので、力は必要なく家庭介護においても女性や高齢の方でも使える手技である。同時に高齢の患者にも軽い刺激で効果を出すことができ、寝たきりの方にも効果が期待できる体にやさしい手技もある。私たちはり師、きゅう師、あん摩マッサージ師にとって、患者に寄り添った「愛のある施術」が根底にあることが実感できる4時間だった。

(文責・和野義弘)

■多面的観察で病因・病理をつかむ

——平成28年度第5回東京都委託施術者講習会

講座：詳細な問診から弁証、少数鍼まで

講師：油谷真空（森ノ宮医療大学講師、奈良市・風胤堂院長）

油谷先生は、奈良市に本部を置く北辰会の指導的会員。同会は、長時間の問診や、多面的な体表観察で、病気の成り立ち、原因を明らかにする流派として知られる。中医学の弁証論治を踏まえ、日本古流の打鍼術も行う診断・治療システムは複雑だが、鍼の配穴はシンプルで一穴を理想とする。依拠する古典文献は、漢代の『素問』『靈枢』から明、清代までの中国医書、石坂宗哲など江戸時代の書物と幅広く、学問研究もおこたらない伝統鍼灸学派である。インスタントな特効穴好みの臨床家からは敬遠されそうな、本格派の鍼灸術の真髄を伝えてほしいと、多忙な油谷先生に関西から来てもらった。

都師会講習会への登場は、これで3回目。講義は基礎理論抜きに、39歳の突発性難聴

の男性患者の問診、診断、治療過程の検討から始まった。カルテの記録から臨床の手順を知り、問診と弁証論治の仕方、病因・病理のとらえ方、食べ物・運動など養生の指導について学んでほしいというのが油谷先生の意図である。

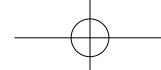
病因・病理の結論からいえば、この患者は、仕事上のストレスと親族の葬儀に出かけた疲労から肝氣鬱滯を起こして内熱が生じ、かつ職場のパソコン業務で座り作業が長く腎陰虚を起こして虚熱が生じ、それらの熱が上焦（みぞおちより上の部分）で合し（一つになる）、耳の竅を塞ぎ、耳聾（耳が聞こえなくなる）を発生したと考えられた。だから、肝鬱で生じた内熱を瀉す（外に出す）ために左後溪（手太陽小腸經）に置鍼し、腎陰虚を補すために左照海（足少陰腎經）に置鍼したところ、症状は徐々に改善し、やがて完治した。

こう書いてしまえば、話は簡単だが、この診断・治療は、北辰会ならではのたくさんの方法によって患者が示す情報を収集・統合した結果、浮かび上がったものである。油谷先生はスライドを使い、問診をはじめ、顔面の氣色診（望診）、舌診、胃の氣の脈診、原穴診、背候診、夢分流腹診、さらに北辰会特有の氣の偏りをとらえる空間診など、種々の方法を説明していった。

問題は、こうして得られた多くの情報が矛盾していて、すんなりとは統一像を結んでくれないことである。この患者の場合も、生命力が失われている「虚」の状態と邪気がみなぎっている「実」の状態が入り交じっていた。しかし、治療戦略を導き出すためには、病状を一言で言い表す「証（状態）」を立て、それがなぜ生じたかの病因・病理を明らかにしなくてはならない。

油谷先生は、顔面の肝・胆を示す個所が白く色抜けしている、腹診では右の肝の部に邪気が感じられる、背候診では右の肝俞が邪氣で實している、原穴診では両方の太衝穴が「虛中の実」の状態、などからこの患者に「肝氣鬱結」という「証」を読み取った。また、舌





~~~~~



診では舌の苔が乾燥ぎみ、脈診では左の尺位の幅が少い、経穴診では左の氣海俞、左の後帶脈、両方の関元俞が虚の状態などの情報から「腎陰虚」の証を読み取った。このように多面的観察による混沌とした情報から共通項を抜き出し、「肝気の実を瀉し、腎気の虚を補す」という虚実補瀉の戦略を立てたわけである。

「痛みの激しい患者、子どもなどは詳細な問診どころか、体表観察も制限される。しかし、多面的観察力があれば、ある程度のことは分かる。少なくとも虚実を判別できれば、補瀉を間違えないし、誤治の確率は低い」と油谷先生は強調した。

短い時間で、こうした情報を察知し、統合し、結論づける油谷先生の力量には舌を巻く。触って診断するのは日本鍼灸の大きな特色だが、手のセンサー能力を高めるのに、どれだけの修業を積まれたことだろう。しかし、高嶺の花としての技術の粹だけでなく、だれでも明日から臨床に生かせる知恵も油谷先生は教えてくださった。問診で、排便や排尿、入浴をしたあとに、疲労感があるかスッキリした感覚になるかを尋ねれば、患者の生命力、自然治癒力が充実しているか衰えているかの「虚実」を判断する材料になるという。

この日の講義は、冒頭、北辰会を紹介するビデオ上映が行われた。その中で会の主宰者、ふじもとれんぶう藤本蓮風先生が長年の臨床生活から得た想いを印象的に語っていた。「治療者の喜び、うれしさ、幸せが、鍼を通じて患者に伝わらないと、治らないんです」。患者との楽しい気の交流が、治療において一番大事だ。複雑な構成の北辰会方式の底に、あらゆる差異を超えて日本鍼灸全体に通用する簡素な境地があることを知って、納得した。

(文責・松田博公)

~~~~~

